

自閉症支援者育成の取り組み

社会福祉法人 侑愛会

令和4年 10月25日

社会福祉法人 侑愛会 法人概要



- 事業展開: 函館市、北斗市
- 法人本部: 北斗市追分7丁目
- 法人設立: 1953年9月
- 事業概要:
 - ・乳幼児、学童児の事業所6ヶ所(幼稚園① こども園②)
(児童発達支援センター① 児童発達支援事業① 障害児入所施設①)
 - ・成人期の事業所13ヶ所(入所施設⑦ 通所施設⑥)
 - ・高齢期の事業所1ヶ所(入所施設①)
 - ・地域生活支援の事業所(グループホーム47 居宅支援①)
 - ・医療機関／相談機関7ヶ所(診療所② 相談支援⑤)
- 職員数: 861名 (2022年3月現在)



法人理念

利用する方々から学び、一人ひとりが必要としているサポートを考え、実行する

自閉症支援者の育成が必要な背景

- 重度知的障害の伴った自閉症者の**居住サービス希望が増えている**
- これまで知的障害の伴った自閉症者を対象とした入所施設、グループホームでは、新たなニーズに答えきれなくなっている
- 既存の居住サービスでも重度知的障害の伴った自閉症者の受け入れを行えるための体制整備が必要＝**人材育成・居住整備**

- ・ 入所施設(成人)の自閉症者の割合 23%～100% (平均38%)
- ・ 入所施設(児童)の自閉症児の割合 82%
- ・ グループホーム の自閉症者の割合 8%～100% (平均23%)

令和2年 侑愛会 実態調査：入所施設利用者状況より

◆ なぜ、受け入れが難しいのか？

- ①自閉症の方には特別な支援が必要？
- ②行動障害への対応ができる体制が整っていない？
- ③居住サービス(入所・GH)の定員に空きがない

専門性の高い職員が身近にいて、必要なときにサポートできる体制を整備する併せて、重度知的障害の伴った自閉症児者を対象とした居住整備を検討する

中核的・指導的人材が必要な理由

知的障害の伴った自閉症の方々の利用が増えている



これまで自閉症支援を行ってきた事業所以外でも自閉症支援におけるスキルが求められている



現場の職員もその必要性を感じており、自閉症支援の研修の関心が高まっている



ただし、研修を受け講義を聞いただけでは実践できないこともある



実践するためには、自閉症の特性を正しく理解していることを前提として、一人ひとりの特性を把握するために機能的アセスメントができ、その人にあった支援を展開できることが求められる



そのためには、全ての事業所に自閉症支援における中核的・指導的人材が必要

中核的・指導的人材に求められること

- 自閉症支援における、指導者として位置付け、個別支援における現状を把握し、ケースマネジメントが行える人材を育成



- ① 自閉症の特性・学習スタイルを職員にわかりやすく説明できる
- ② 構造化の意味を職員にわかりやすく説明できる
- ③ 機能的アセスメントができる(フォーマル・インフォーマル)
- ④ アセスメントから一人ひとりの特性を見極めることができる
- ⑤ 一人ひとりの特性を生かした支援を提案できる
- ⑥ チームのマネジメントができる(アドバイス・コーチング等)

自閉症支援者育成の仕組み

地域の指導的、中核的人材としてコンサルタントや
ワークショップのトレーナー*役として活躍（発達障害者支援センターと協働）

ワークショップ

サブトレーナー

協力者の支援の責任者として、トレーナーからの要望に応える

ワークショップのスタッフとして
活躍

オンライン可

フォローアップ(実践報告)

ワークショップ受講者発表 年1回

ワークショップの受講

対象：自閉症基礎研修修了
年1回 5日間の集中トレーニング

コンサルテーション

サブコンサルタント*

コンサルタントのサブとして
他の事業所に出向く
支援センターも含めて4名の職員
で分担

チームリーダー

事業所のケースの推進者
チームのカウンターパート

オンライン可

コンサルテーションに参加

年3回
入所施設4ヶ所
通所施設4ヶ所
グループホーム2ヶ所

他機関との連携

TEACCH公認ワークショ
ップの参加
TEACCHオンライン研修の
参加

強度行動障害支援者実
践研修

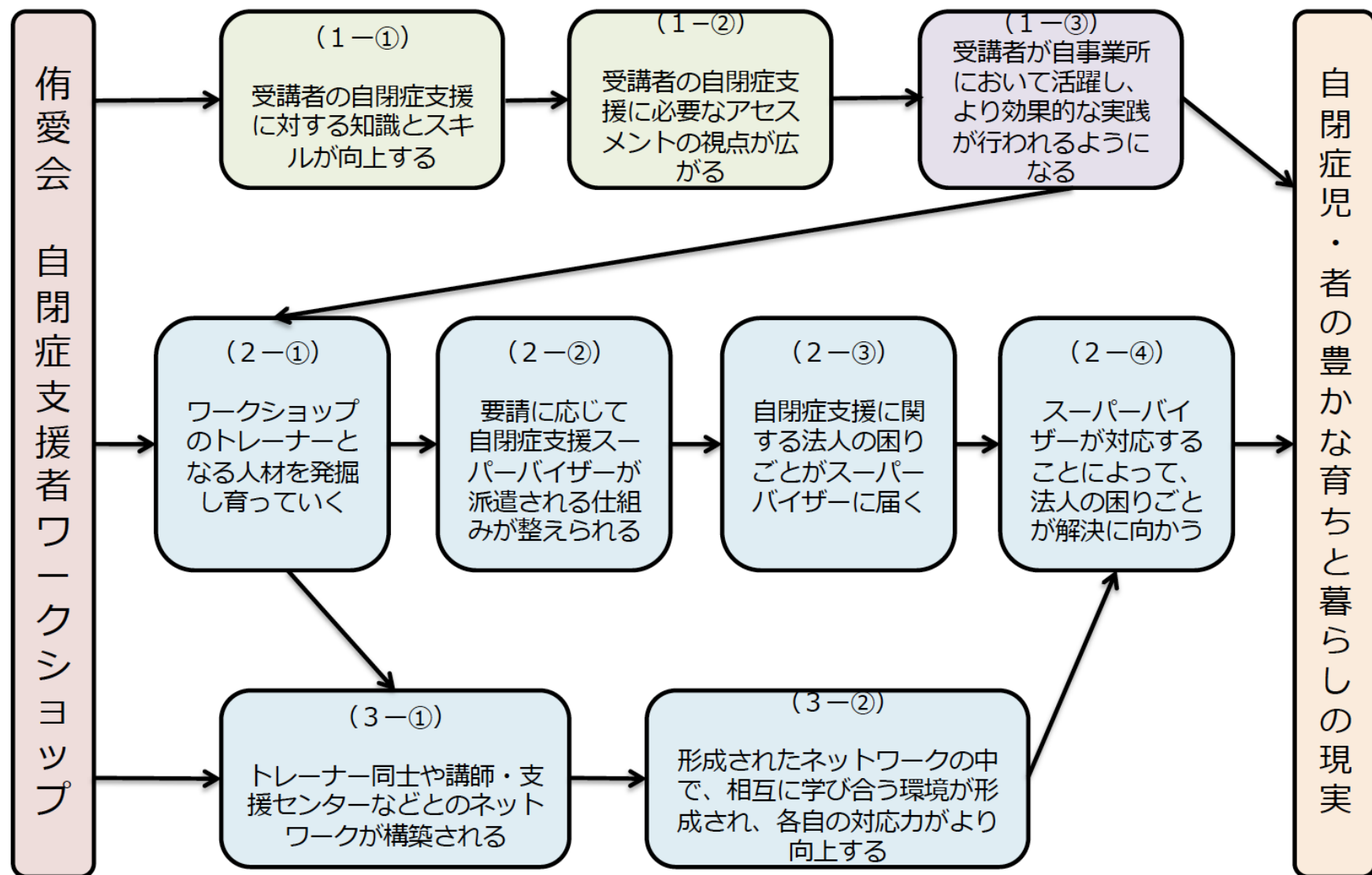
PECS
応用行動分析
TTAP
他法人の実践報告等

侑愛会 自閉症基礎研修

年間7回実施 1年目から3年目の職員を対象

オンライン可

強度行動障害支援者基
礎研修



研修成果の基準として、【レベル1】 Reaction (研修に対する満足) 【レベル2】 Learning (知識の向上)
 【レベル3】 Behavior (受講者の行動変容)、【レベル4】 Results (組織(地域)への成果を挙げている。

※この4段階評価に対照すると、成果の流れ図に示した成果のうち、

1-①から1-②までが【レベル2】 Learning (知識の向上)

1-③が【レベル3】 Behavior (受講者の行動変容) 及び【レベル4】 Results (組織への成果)

2-②から3-②までが【レベル4】 Results (組織への成果) に該当すると考えられる。

受講者・スタッフ参加状況

受講者参加者状況

	法人内	道南	道内	道外	合計
2016年	13名	4名(教員1名)	12名	1名	30名
2017年	15名	3名(教員1名)	5名	2名	25名
2018年	15名	2名	7名	1名	25名
	43名	9名	24名	4名	80名

スタッフ参加者状況

	法人内	道南	道内	道外	合計
2016年	21名	16名(教員6名) (保護者9名)	6名	4名	47名
2017年	24名	13名(教員3名) (保護者9名)	5名	6名	48名
2018年	27名	8名(保護者8名)		2名	40名
	72名	40名	11名	12名	135名

人材育成の課題

【ワークショップ】

- ① ワークショップ受講者の人数に限りがある
- ② 5日間の研修に参加することでの現場の負担
- ③ スタッフの負担(準備・現場への負担)
- ④ 基礎研修から、ワークショップ受講までの中間ステップの仕組みが必要
- ⑤ 上位レベルにある職員が、トレーナー(サブ)、基礎研修講師、コンサルSV等を多重兼務しているため、役割分担が必要
- ⑥ 研修→実践のサポートの仕組みの確立

【コンサルテーション】

- ① コンサルに参加した職員(ケース報告するチーム)と、ケースに関わっていない職員との温度差があるため、事業所全体の取り組みとして位置づけるための仕組みが必要

事業所に対するコンサルテーション

◆ 道内 通所施設・グループホーム(生活介護・共同生活援助)

- * 近隣住民とのトラブルでグループホームでの生活が困難
- * 侑愛会の短期入所を利用しアセスメント、支援の組み立て、実務研修の受け入れを行う
- * 並行してグループホーム＋日中活動へのコンサルテーションを実施しフォローアップを行う
- * 短期入所でのご本人の支援とコンサルテーションを一体的に展開して元の事業所へ戻る
- * 短期入所での介入／事業所内の支援整備のアドバイス／フォローアップ

◆ 道内 入所施設(障害者支援施設)

- * 虐待事案のあった事業所
- * 虐待防止に向けた取り組みと合わせて自閉症支援改革の要請
- * 管理職への研修実施
- * モデルケースに対して、コンサルテーションの実施
- * アセスメント(TTAP・PEP3の一部実施)の実施をみてもらう⇒見立ての共有と支援プランの提案
- * 支援の施行と経過について観察と助言⇒継続中
- * 管理職研修／事例検討／フォローアップ

◆ 道内 入所施設(障害者支援施設)

- * 行動上の課題のある利用者への対応に苦慮し支援の要請
- * コンサルテーションの実施
- * 遠方のためメールやオンラインでの継続相談とフォローアップ
- * オンライン対応／事例検討／取り組みのアドバイス

重度知的障害の伴った 自閉症者の居住整備

障害児入所施設 在宅



③

入所施設

5ユニット(1ユニット10～12名)



小規模ユニットの利用者 男性6名

平均年齢：34歳

20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳
3名	0名	2名	1名

療育手帳

A	B
5名	1名

IQ別

測定不能～19	20～34	35～49
4名	1名	1名

障害特性

自閉症	てんかん
6名	1名

星が丘寮の在籍年数

0年～4年	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年以上
4名	0名	0名	0名	2名

支給決定市町村

函館市	北斗市	七飯町	八雲町	札幌市
2名	1名	1名	1名	1名

支援区分

区分4	区分5	区分6
0名	2名	4名

全員：重度障害者支援加算Ⅱ

小規模ユニット(6名) 3年の有期限



①

②

グループホーム 定員7名



グループホーム 定員7名



グループホーム 定員7名



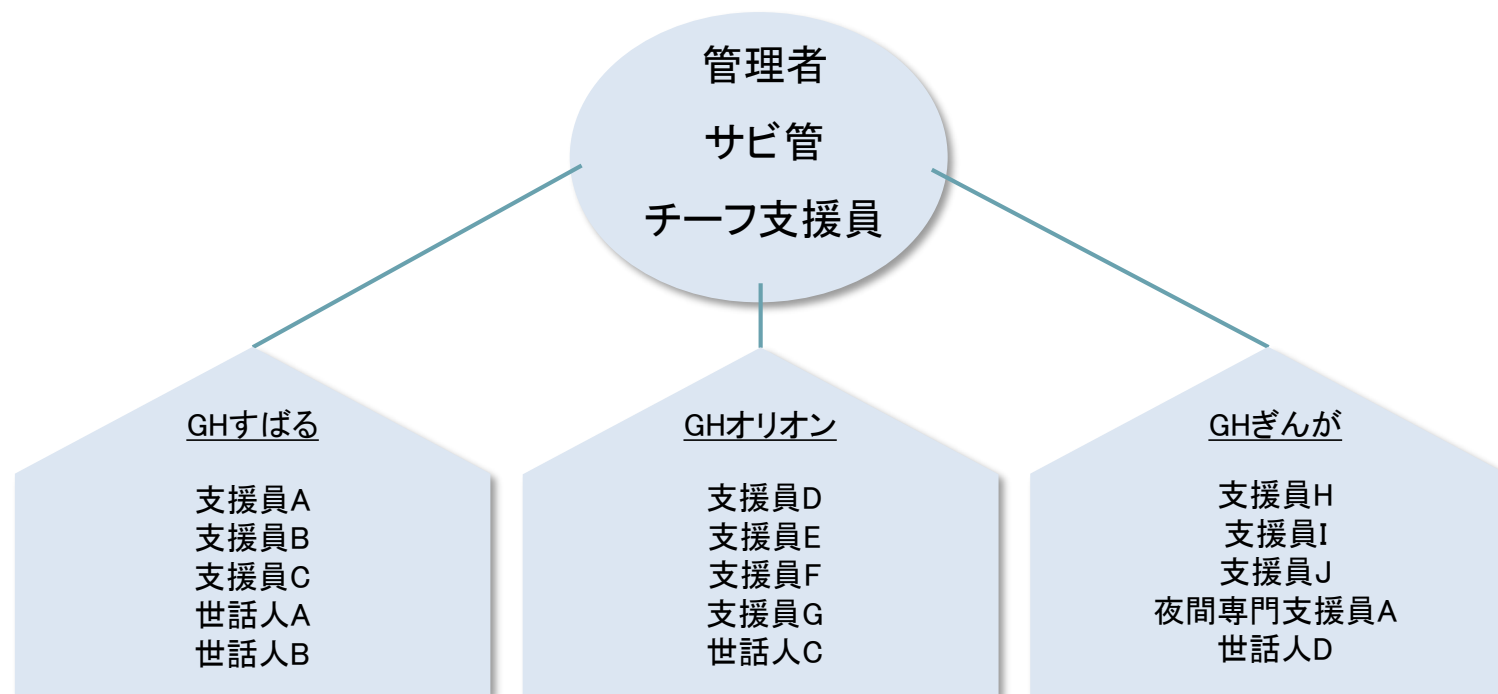
小規模ユニットの目的

- 事業形態: 入所支援事業＋生活介護事業
- 対 象: 入所施設の利用者
- 期 間: 最長3年
- 目 的: ①グループホームへの移行を想定したアセスメント
②ご本人の生活スタイルの確立
③ご家族への説明
④必要な支援の見極め
- 日中活動: 生活介護(菌床きのこセンター等)
- 支 援: 職員は固定しない
- ご 家 族: 定期的に暮らしの様子を伝える
- そ の 他: 暮らしがマッチしないことがわかった段階で、
本体施設に戻ることも可能

* 入所施設からグループホームへの移行した利用者は、現在までに
14名

重度知的障害者の伴った自閉症者を対象とした グループホームの概要

事業	共同生活援助(グループホーム3か所)・短期入所
定員	21名(1GH×7名) 短期入所1名
開設日	2015年11月1日
夜間の体制	夜勤体制(宿直併用) 24H×365日
職員構成	・管理者(1名)・サービス管理責任者(1名) ・支援員(11名)・世話人(4名)



資 料

乳幼児・学童期

児童発達支援センター	七重浜	つくしんぼ学級
児童発達支援事業所	七重浜	おひさま
幼保連携型認定こども園	七重浜	七重浜こども園
幼保連携型認定こども園	七重浜	浜分こども園
幼稚園（学校法人）	七重浜	ゆうあい幼稚園
福祉型障害児入所施設	当別	おしま学園

成人（入所・通所）

障害者支援施設（施設入所支援 生活介護）	当別	新生園
障害者支援施設（施設入所支援 生活介護）	当別	明生園
障害者支援施設（施設入所支援 生活介護 就労継続支援B型）	当別	ワークショップまるやま荘
障害者支援施設（施設入所支援 生活介護）	当別	星が丘寮
障害者支援施設（施設入所支援 生活介護）	当別	ねお・はろう
障害者支援施設（施設入所支援 生活介護）	石川	函館青年寮
障害者支援施設（施設入所支援 生活介護）	七重浜	侑ハウス
多機能型事業所（生活介護 就労継続支援B型）	石川	ワークショップはこだて
多機能型事業所（生活介護 就労継続支援B型）	久根別	クッキーハウス
多機能型事業所（生活介護 就労継続支援B型）	七重浜	おしま園床きのごセンター
生活介護事業所（通所）	七重浜	おしま屋
生活介護事業所（通所）	石川	函館青年寮通所部
生活介護事業所（通所）	久根別	ワークセンターほくと

高齢

障害者支援施設（施設入所支援 生活介護）	当別	侑愛荘
----------------------	----	-----

グループホーム支援

グループホーム（サポート機関）	七重浜	サポートはまなす（所属グループホーム23カ所）
グループホーム（サポート機関）	当別	サポートかわつき（所属グループホーム8カ所）
グループホーム（サポート機関）	当別	サポートすばる（所属グループホーム3カ所）
グループホーム（サポート機関）	久根別	サポートカーム（所属グループホーム13カ所）

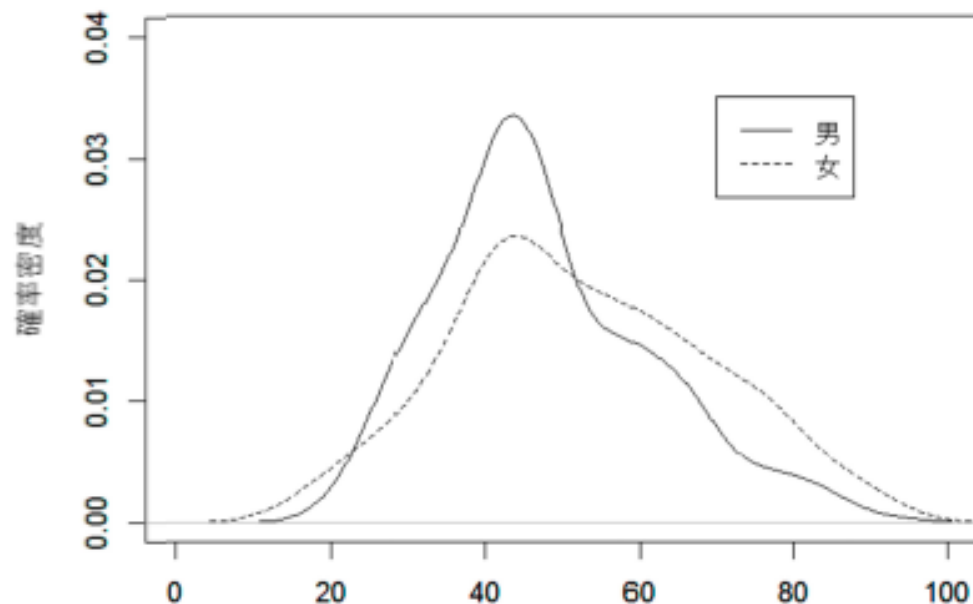
医療・相談など

診療所	当別	ゆうあい会診療所
診療所	石川	ゆうあい会石川診療所
障害者生活支援センター	石川	ばすてる
発達障害者支援センター	石川	あおいそら
障害者就業・生活支援センター	石川	すてっぴ
障がい者生活支援センター	久根別	アシスト・ほくと
障害児相談支援事業	七重浜	相談室つくしんぼ

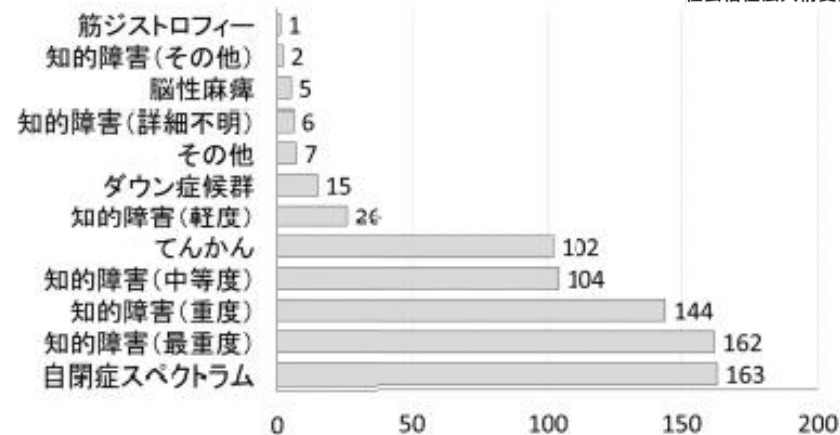
居宅支援

ヘルパーステーション	久根別	ルーチェ
------------	-----	------

入所施設の年齢分布



入所施設の主診断名

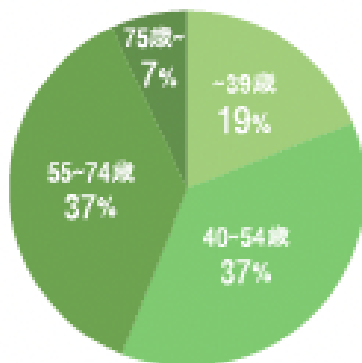


平成27年 倭愛会の入所施設における医療ニーズに関する調査より

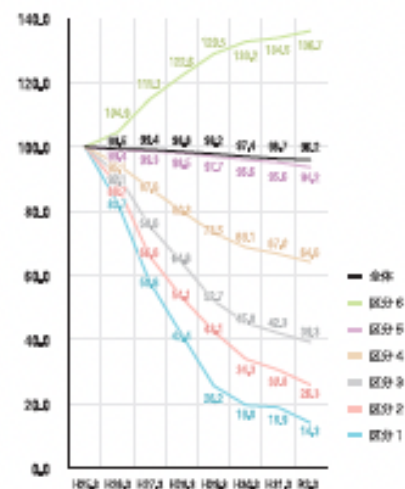
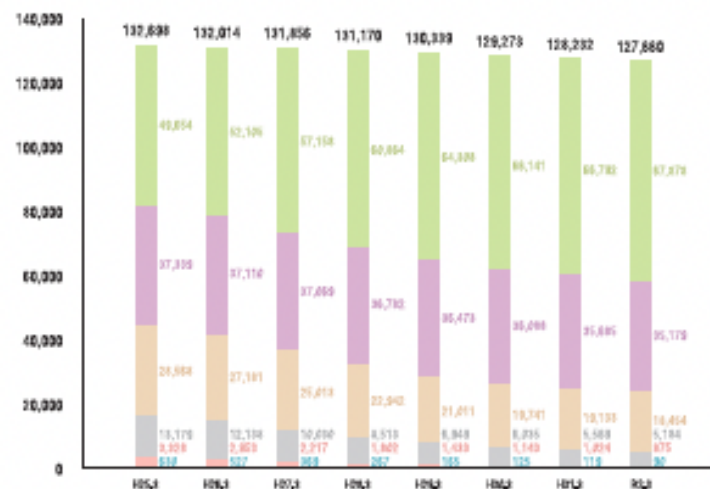
施設入所支援の利用者数の推移(障害支援区分別)

障害支援区分別の利用者数について、令和2年3月時点と平成25年5月時点と比較すると、

- ・ 区分1は85.7%減少、区分2は73.7%減少、区分3は60.7%減少、区分4は35.4%減少、区分5は5.8%減少となっている。
- ・ 区分6は34.5%増加となっている。

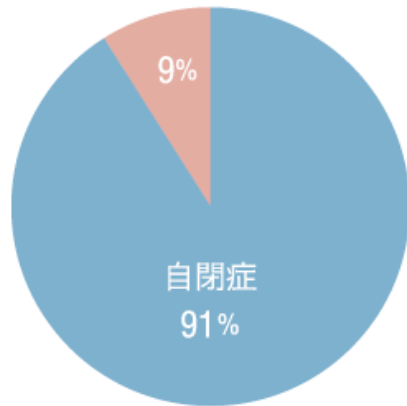


ゆうあいの入所施設利用者の年齢構成
ゆうあいの入所施設利用者うち55歳以上は44%を占める。

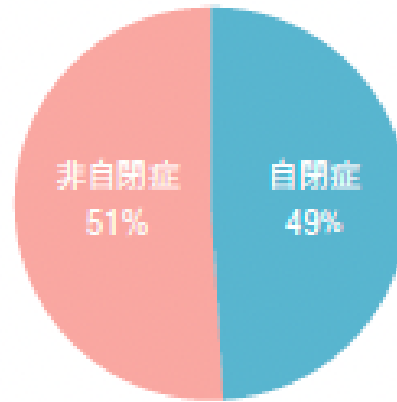


令和4年 倭愛会 指針より

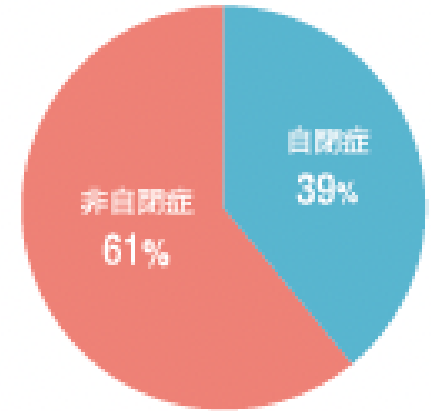
非自閉症



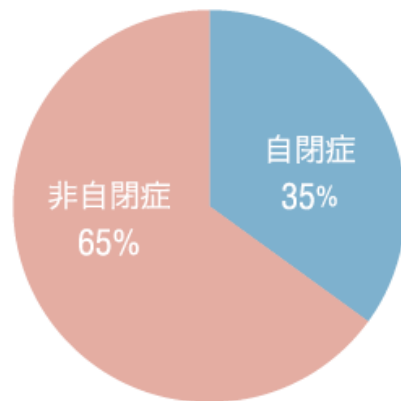
「おしま学園」利用児童に占める自閉症児の割合



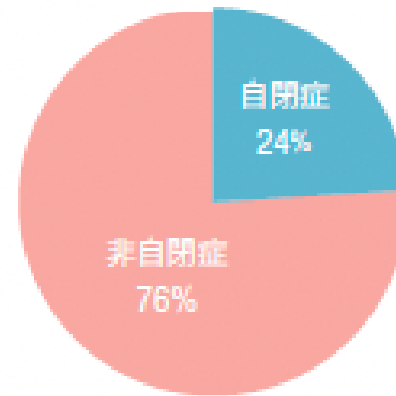
ゆうあいの在宅支援利用者に占める自閉症者の割合
ほぼ2人に1人が自閉症の診断を受けている。



ゆうあいの入所施設利用者に占める自閉症者の割合



ゆうあいの日中活動利用者に占める自閉症者の割合



ゆうあいのグループホーム利用者に占める自閉症者の割合
24%が自閉症の診断を受けている。

社会福祉法人侑愛会 令和4年度 自閉症支援基礎研修

募集要項

※目的：多くの事業所において、自閉症の特徴のある利用者が増加している状況がある中、その特徴に合わせた、より専門的な支援実践を事業所全体で取り組んでいけるようになることを目指し、そのベースとなる知識やノウハウを身につけた人材を育成していく。

※対象：1年目から3年目の初任者又は、各事業所からの推薦者。1～3名程度。
★1年間（令和4年度は全7回）通して参加可能な職員。

※場所：

会場
当別地区、七重浜地区、函館地区に拠点を配置。各拠点をオンライン（ZOOM 配信）でつなぐ。 ★各拠点にサポート講師を配置し、グループワークの補助や講義の解説サポート等を行います。

対象施設
当別の事業所、侑ハウス、青年寮、青年寮通所部、WS ほかと、WS はこだて、おしま屋、おしま園床きのごセンター、クッキーハウス、グループホームなど、主に成人期を支援している事業所。 おしま学園、つくしんぼ学級、ゆうあい幼稚園、七重浜こども園、浜分こども園など、主に乳幼児・児童期を支援している事業所。 ★あおいそら主催の一般受講者向け自閉症基礎研修（主に幼児・児童期向け）もオンラインにて開催を予定しています。そちらへの受講を希望する場合は、あおいそらへお問い合わせください。

※日時・講師・内容

	年月日	時間	講師	テーマ
第1回	令和4年5月20日（金）	16:00～18:00	片山（あ）	特性理解と評価
第2回	令和4年7月15日（金）	16:00～18:00	福山（お）	構造化
第3回	令和4年9月30日（金）	16:00～18:00	林（す）	課題分析
第4回	令和4年11月25日（金）	16:00～18:00	吉野（星）	コミュニケーション
第5回	令和5年1月20日（金）	16:00～18:00	塩原（あ）	社会性
第6回	令和5年3月17日（金）	16:00～18:00	榎本（ね）	行動マネジメント
第7回	令和5年5月12日（金）	16:00～18:00		実践報告（受講者の発表）

※テーマについては、変更になることがあります。

※申込方法：下記 URL（Google-form）からお申し込みください。

<https://forms.gle/xHe9Nvkb7FuPWXdq5>

★複数名お申し込みを希望される場合でも、おひとりずつご入力ください。

★お申込期限は、令和4年4月28日（木）までとします。申し込み後、変更がある場合には、ねお・はろう上川（外線 75-2112 内線 323）までご連絡願います。

※注意事項：新型コロナウイルス等の感染状況等により、予定が変更される場合があります。予定に変更がある場合は、メールにてお知らせいたします。

2020 年自閉症支援のためのワークショップ 5 日間集中コース 事業概要

【目的】

このセミナーは、北海道内（特に道南地域）を中心とした発達障害児者の支援に携わる方のリーダーを養成することを目的に開催いたします。自閉スペクトラム症の認知・行動特性に配慮した支援について、5 日間の日程で、基本的な知識から実践までを実際の自閉症の方々への支援の組み立てを通して学んで頂きます。また、研修会の1日目は、一般公開とし、自閉症の方の特性と支援について、より多くの方への自閉症の普及啓発に努めます。

【内容】

自閉症支援における第一人者を講師として招聘し、更に 4 名の自閉症スペクトラム当事者の方にご協力頂き、自閉スペクトラム症の認知・行動特性に配慮した支援について、5 日間の日程で、基本的な知識から実践までを実際の自閉症の方々への支援の組み立てを通して学んでいただきます。講義のテーマは自閉症の特性、特性に合わせた支援としての構造化、コミュニケーションの指導、自立課題の設定と作成、社会性の指導、個別の支援計画作成などで、講義と合わせて、実際に協力者の方への支援の組み立て、実施して頂きます。

【プログラム】

■日程：2020 年 9 月 8 日（火）～9 月 12 日（土）

■内容：

9 月 10 日（火） 10:00～14:00 一般公開講座『自閉症スペクトラムの特性と支援の基本』
14:15～16:00 【ワークショップのガイダンス・ペアレントトーク】
16:00～17:30 【講義：アセスメント】
9 月 11 日（水） 9:15～18:00 【実技トレーニング・講義：自立支援と生活場面の構造化】
9 月 12 日（木） 9:15～18:00 【実技トレーニング・講義：コミュニケーション】
9 月 13 日（金） 9:15～18:00 【実技トレーニング・講義：余暇と社会参加】
9 月 14 日（土） 9:15～17:30 【実技トレーニング・講義：明日からの支援に向けて】

* 予定の時間は、断りなく調整される場合がありますので、ご了承ください

■会場：北斗市総合文化センター

■受講料：〇〇〇〇円

■定員：24 名（自閉症スペクトラムへの支援に携わる実践者向けの研修です）

5 日間の全課程を受講終了された方には修了証をお渡しいたします。

発達障害児者の支援充実に向けて、発達障害者支援センターと協働くださるとともに、所属する団体や地域における発達障害児者支援のリーダーとしてご活躍されることを祈念いたします。